

1260年振りに里帰りする調布



土浦市立博物館長
上高津貝塚ふるさと歴史の広場館長
茨城大学名誉教授
茂木雅博

市民の皆様新年おめでとうございます。私が館長を仰せつかつて5回目の新年を迎えました。5年前の新春文芸で「土浦の古代布」を紹介させて頂きました。その折「今年の初夢に、この法隆寺の白布を里帰りさせたい」と結びました。それが今年正月早々実現する事に成りました。市民の皆様には土浦の古代人が作製した麻布の実物を是非見て頂きたいと思います。特に現在日本の歴史を勉強中の次の時代を託す若い人たちにこの麻布から何かを感じて頂ければ大変うれしいことです。

今年の第63回正倉院展には20点近い織物が展示されました。私は皆様に本稿で紹介する為に丹念に観察しました。その結果これらには「純」、「綾」、「錦」、「麻布」等の種類があり、用途に応じて使用されています。例えば「純」を「純」で染めた胴着、紅花と藍で絞り染にした上着、同じく東大寺の堂内に架けられた華鬘、或は正倉院の防虫香を包んだ袋や薬を保存する為の包、錦は机の上敷きや、経巻のつつみ物に、綾は風呂敷風のつつみで僧侶の袈裟等を包むのにそれぞれ使用されています。麻布は利用価値が多岐にわたり、今回展示されたものには天平勝宝8(756)年に東大寺の寺域を定める為に作られた、東大寺山堺四至図(縦297cm、横223cm)が巾75cmの麻布を3枚縫い合わせたものに描かれています。また紅花で染めた一条の幅があり、端に墨書で「調布壹端(長四丈二尺)」と銘文が読み取れます。更に舞楽の衣裳や作業着等に麻布が使用されていました。



調布(法隆寺所蔵、国指定重要文化財)
画像提供：東京国立博物館
Image:TNM Image Archives Source:<http://TnmArchives>

こうした織物は調・庸の貢物として全国各地から都(藤原京・平城京)に納められ、宮中を飾ったり、役人に支給されたりしたものです。常陸国から貢納された麻布は白布のままであったり、人参袋や馬鞍腹帯、伎楽面収納袋等々に使用されたりと正倉院に20点近く保管されています。それは鹿嶋郡1点、信太郡1点、茨城郡1点、筑波郡4点、那珂郡4点、多珂郡1点、久慈郡1点、行方郡5点等です。

これ等の文物は正倉院に保管されており、現在も宮内庁が厳重に保管し管理していますので門外不出です。当時南都七大寺(東大寺、大安寺、興福寺、元興寺、唐招提寺、薬師寺、法隆寺)と呼称された天皇家とゆかりの大寺院があり、そこに下賜されたり、奉納された遺品が存在します。その中に土浦附近から運ばれた調布2点があります。1点は明治18年法隆寺から明治天皇に献納された「葡萄唐草文錦褥」の芯に使用された麻布です。これには「常陸国信太郡中家郷戸主大伴部羊調壹端」、「天平勝宝四年十月」という墨書が見られます。天平勝宝という元号はありませんから、これは天平勝宝でしょう。しかしこの資料は東京国立博物館から門外不出です。

もう1点は奈良の法隆寺に保管されています。その墨書銘は



常陸国信太郡中家郷大伴部中万呂調壹端
専当国司史生正八位上志貴連秋島
郡司擬主物部大川天平勝寶四年十月

とあります。天平勝寶4年は752年ですから、ことしは丁度1260年後という事になります。この調布が里帰りをします。私もまだ見たことがありませんので大変楽しみです。

特に当時の農民にとって班田收授によって課せられた租・調・庸・雑徭・兵士等の税は大変重い、過酷な物でした。因に平安時代に整理された「延喜式」には交易雑物として常陸国に以下の負担が課せられています。「純(一百疋、布四千端、商布一万三千端、庸布七百段・・・)或は「雑菓廿五種」等々があります。その中には「麥門冬六升」という数値があります。これは「ヤブラン」の根を乾燥させて粉末にしたもの6升という意味です。

当時の政府はあらゆる方法で農民を酷使しており、特に兵士を出す戸が潰れると言われました。そんな時代の文物が里帰りするのです。大伴部中万呂の妻がどのような思いでこの麻布を織り、貢納したのか、誰が運脚夫にされて奈良まで運んだのか、彼は無事土浦に帰国する事が出来たのかを想像しながら鑑賞して頂きたいです。

機織りは、近年各家々で行われることはなくなりましたが、昭和30年代までは女性の大切な仕事のひとつでした。市立博物館では、この地方の伝統技術を伝えるために20年以上前から綿を栽培して糸を紡ぎ、その技術を継承しております。その再現された布もはたおり教室卒業生の皆様によって制作され、展示されていますので、どうぞお出かけ下さい。調布は今回見逃すと今世紀はもう見る事が出来ないと思います。こんな貴重な文物を1200年以上も保管し、この度里帰りをお許し頂いた法隆寺の大野玄妙管長ならびに仲介を頂いた奈良国立博物館に対して土浦市民を代表して心から感謝しお礼申し上げたいと思います。

「調布」(法隆寺所蔵、国指定重要文化財)は、1月7日(土)から2月19日(日)まで市立博物館で展示公開されます。

土浦市立博物館

休館日／毎週月曜日(1月9日を除く)、1月10日(火)
開館時間／午前9時～午後4時30分
(午後5時まで見学可能)

◎記念講演会

中家郷の調布1260年ぶりの里帰り

とき／2月19日(日) 午後2時から

ところ／市立博物館視聴覚ホール
内容／中家郷の調布の歴史的意義
茂木雅博(市立博物館長)

調布から読みとく古代社会

堀部 猛(市芸芸員)

岡博物館(☎824・2928)

